



島田 恒 議員



文化財の保護と活用について

問 市内の指定文化財の件数は。

答 国指定が2件、県指定が14件、市指定が114件。合計130件。地域別では旭地域23件、海上地域47件、飯岡地域10件、干潟地域50件。合併後の指定は1件で平成20年に太田のエンヤールホーが県指定に追加されている。

問 文化財の教育現場での活用状況について伺う。

答 郷土の偉人や文化財、伝統文化等については、社会科副読本の中で、椿の海の干拓に尽力した鉄牛和尚、農村を豊かにした大原幽学、さつまいもの苗作りを広めた穴澤松五郎、落花生を広めた金谷総蔵、祭り等について取り上げている。

問 観光や地域振興にどのように結び付けていくのか。

答 観光物産協会において御朱印のお城版として御城印事業を実施。椿の海を舞台とした周

遊ツアーに山城めぐりを組み込む等新たな魅力の掘り起こしとして文化財を活用している。

問 文化財のデジタル化への取り組みについて伺う。

答 ホームページでの文化財の紹介、文化財の説明看板にQRコードを入れ、詳しい情報にアクセスできる取り組みを進めている。また、重要なものや劣化が著しいものから順にデジタル化を進め、将来的にはオンラインの文化財ポータルでの公開を目指す。

デジタル田園都市国家構想について

問 本構想に基づく農業生産の効率化、地域産業の振興、観光振興の更なる展開について伺う。

答 「千葉県スマート農業推進方針」に基づき、農業の持続的な発展を目指した、スマート農業を推進し、農業者に対する相談受付や国・県補助事業の紹介、申請書の作成支援等を行っている。昨年度から実施しているユーチューブインストリーム広告について、今年度は冬季向けの動画を作成する予定。さらにインスタグラムによるネット広告を活用すること、全国に向けて旭市を発信し、さらに幅広い世代の新規観光客の獲得に努めて行く。

水道事業の広域連携について

問 検討状況及び今後の取り組みを伺う。

答 銚子市、東庄町と広域連携に関する研究会を立ち上げ、令和元年度より調査・研究を重ねてきた。銚子市、旭市、東庄町によって構成される東総ブロックでは、末端給水事業のみの広域化では効果が限定されるという共通認識の下、用水供給を担う東総広域水道企業団を加えた4団体による水道事業統合・広域化の検討会を設置し、検討を進めている。

問 4団体による検討会を設置した狙いとメリット・デメリットは。

答 広域化の狙いはより大きなスケールメリットを生かした事業展開が可能になること。メリットは人材、資金、施設等の経営資源の有効的な活用により、経営の効率化・基盤強化、災害・事故の緊急対応力の強化、職員の経験や専門知識の蓄積によるスキル

向上が考えられる。デメリットは異なる料金体系の統合、浄水場を含めた施設の統廃合の調整が難しいことが考えられる。

消防広域化及び共同化について

問 どのような事業を行っているのか。

答 平成25年4月1日より、千葉県北東部・南部ブロックの20消防本部で構築した「ちば消防共同指令センター」の運用が開始され、通信指令業務を移行し、共同化した。共同化したことで、業務の効率化、各消防本部との連携、情報の共有が可能となり、相互応援体制が強化された。

問 首都直下地震や南海トラフ地震等の広域にわたる被害が想定される大規模自然災害に対しての体制は整っているか。

答 全国規模の災害派遣体制であり、旭市に大きな被害が発生した場合は、全国より緊急消防援助隊が出動する体制が構築されている。また、首都直下地震、南海トラフ地震については、計画が定められ、応援体制が構築されている。その他の質問事項
○新型コロナウイルス感染症対策について